

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所・放課後等デイサービス どりーむキッズよしの川			
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		～	令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数)	16名
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日		～	令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月18日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家庭的な雰囲気の中で障害の多様性を認め合いかわりあうことで助け合いや刺激を受けることができる。	利用児童がお互いを認識しあえるように、できる限り活動を共有していく。例えばおやつを食べたり映像を見たり同じ空間で声を掛け合う機会を作っている。	発語が見られない児童も多いので、絵カード以外のコミュニケーションが取れるような機器や方法を検討していきたい。
2	看護師の配置により衛生管理をはじめ感染症や体調急変時の対応が迅速に行える。医療的なケアに対応し、保護者からの相談にも対応できる。災害時の事故やケガについてもスムーズな対処に貢献できる。	常に利用児童に係り、個々の特性と体調を把握し食事・嚥下・排泄等の心身の状態を観察して職員や保護者に伝えられるようにしている。また、家族支援として、肢体不自由児や気管切開をしている児童の入浴サービスを提供している。	個々の児童の服薬についての情報共有をして、保護者の意向に添い、必要に応じて医療機関との連携を図っていく。

3	作業療法士の配置により手先のぎこちなさや日常生活動作訓練にアプローチすることが出来る。	保護者の意向により通所先の医療機関の訓練担当者と連携を図り、事業所の中でできる訓練や作業療法を進めていくことができる。	活動の中でアセスメントしながら専門的支援を担っていく。
---	---	---	-----------------------------

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	障害の幅が広く集団での活動に制約が生じる場合もある。	入浴サービスには安全性に配慮して二人体制で実施しているため、サービスに掛かる時間は子どもに対応できる職員が少なくなる。また肢体不自由児には移動・移乗に二人体制で臨んでいるので排泄介助にも時間を要する。	入浴サービスの時間を工夫して集団活動やレクリエーションなどをなるべく共有できるようにしていく。学校休業日等の1日利用の時は予定を立てて臨む。
2	パニックを起こした時の安全性を確保する事が難しい。安全にクールダウン出来る場所が不十分である。	クールダウン用に使っているスペースにはエアコンがなく、夏期は感覚過敏な児童には対応が難しい。（暑いと余計にイライラしてしまう）	パニックは突然起こるので発生要因を除くことが先決ではあるが、配慮していても予定外に発生した時の安全確保を検討していく。
3			